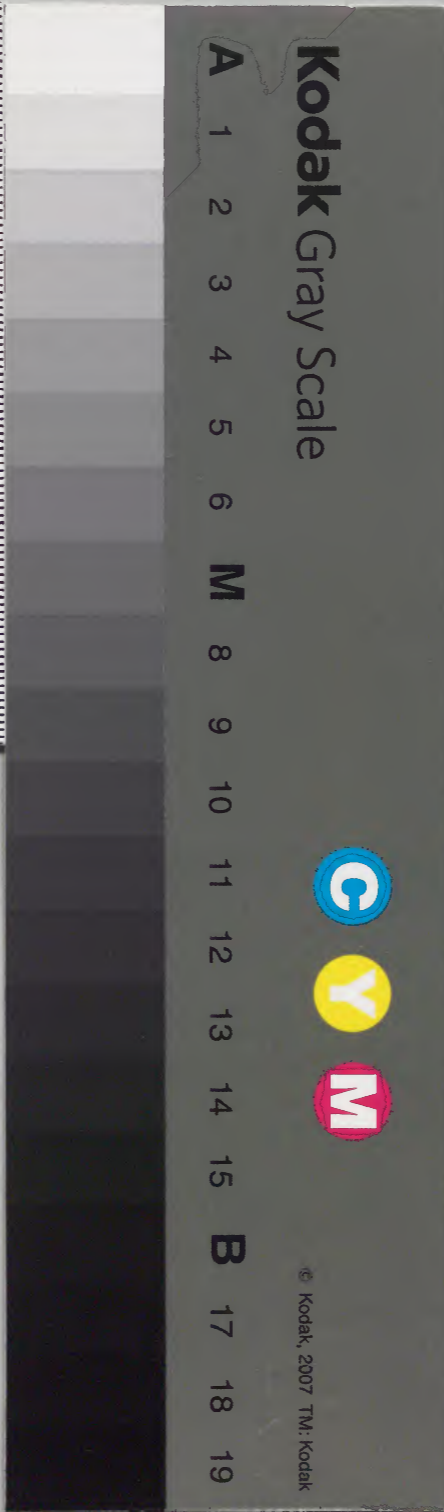
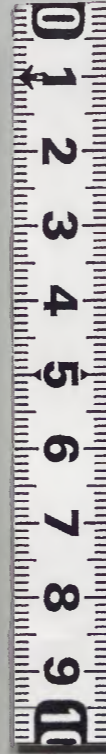


兼山麗澤秘策

和書門			
二七〇一	九	二	八
號	函	架	冊

庫文閣内			和書
二七〇一	九	二	八
號	函	架	冊

内閣文庫	
番號	和 27101
冊數	8 (2)
函號	204 253



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

光中御書之儀様之巻もてあるといふ事の中を以て耐ふる御後輩の
是ハ定石の内分扱の事人ノ所ノ事も有る事也之儀事の中は自分
扱の事入方事の内先ノ礼も有る事也此中では方分ありといふ事
實生事の内井伊及対ノ不感服ノ体も有る事也此中では
一筆も有る事也及御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
毒細の事御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
くく温厚なる事も御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
割替も先ノ天英院御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
改り中御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
志つて御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は

事の中御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
不事の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は

六月廿八日

同六月九日 以下六條

尚月六日書米新井氏に在城知事白新井氏居居後御書不長
是也 文昭院御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は
御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は御書の中は

幕内寺内光中江紙史の沖陣上は家河尉三兵衛も廻斗台も其
中守私も果後も一は之を踏系は其跡を不存止一其後中守と申して
中守沖陣上は其後よりそのおるに之を後八ノ尉と申して沖陣上は其後
沖陣上は其後中入は其後より其後沖陣上は其後沖陣上は其後
其後より其後沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後
沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後
沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後
沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後

上名より其後沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後
沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後
沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後
沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後
沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後
沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後
沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後
沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後沖陣上は其後

一此後將軍 宣下は後水戸殿に去履相模也後今号人八井上河内
也後中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以

中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以

一私中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以
中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以中守若年等元之也元以

弟子は實に志高くはるる臆病者たる人を知るに中後より公
付之ハ古切に一云く事終る中上公知は此等兒の心極多しと誠前も後方
と 沖流は誠向後志高くはるる中半を以て行中一記とて一上志は由物終
るとは是より中上公知は此等兒の心極多しと誠前も後方
是神は静澄は此公知中上方より相もは此等兒一志は遠徳有る

同 八月九日

同 同 八月十日 以下は條

一 昨日新井氏方の在城は知後友系在る全根中後より行用を
討談と存る他は在 指北後友系在る夜良時也 形在後は此等行用
は後友系在る氣は此等事も在る此等事も在る くり由中史云

あ七年以前は各別してありし私におも次青の精力衰ゆる年々、
多し後より由中史云を衰ゆる年々、あ七年前ハいれは精力を
以て收り勤むる疲る年中ハ只今ハいれは精力を以て何れ論も
極むる此等事も在る此等事も在る 後中史云は此等事も在る
と卯ハ念志は此等事も在る此等事も在る 中史云ハ此等事も
以て中史云は此等事も在る此等事も在る 中史云ハ此等事も
法法彼も此等事も在る此等事も在る 中史云ハ此等事も
大學政も此等事も在る此等事も在る 中史云ハ此等事も
の事ハ此等事も在る此等事も在る 法法目極る此等事も在る
儒者も此等事も在る此等事も在る 中史云ハ此等事も在る

文昭院振うく由也也一級並只今社程と為る

一頃日年寄町人の材多しとのりの中只相價踊貴し年いりは詮後之
とも在る詮後多し枝多し上は左中より年いりか武士共法政人
町人共合程程程なり何其服取るかいらはとのた人相違候は
いふお急之廉並候ものを程候とより中程の程候いふ言中より及り由紙
二二枚よを細を垂垂書立ひるんせ中の中程程候なりは中の中程
是ハ空初より中後の人材と撰り中後改くす言は何程勇者とも力振
利きき名中の六働さ不不候上は儉約し法なり何程水も濃き法 何出
いふも史と書り中人ありいふは法に依りて其書と改り中の中程
人材と云ふ不不中の上は由求り及候なり中の中程只今は中

始具負と云く由撰卷多し同部及なりは依りて用不中程と云は
不及是非の才一由中の方ハ只今也は書候人ホ日比書入に書否在撰
以後不同今と法政人たも法分入と云ふ重なり只今初り中後不
不候ハ 文昭院振うく史と能在候なり只今は書生より改り中
由中の中程の人材より中程の程も誰有と書り中程の程と云は
人材と云ふ由中の中程の程ハ只今も在程なりははいりて後の中程の程
中程ハ早免由旗中の中程の程なり日比書向書なり中の中程の程
年以來は風俗に化して是なる人ハ古風と云り中程の程の程ハ
中程の中程の中程ハ不不中程の程も生質居書候なり中程の中程の程
中程の程の中程の人材と云ふ中程の程一概し論し私ハ在は但日比料管

古語記仕に元来人身五臓之繫絡甚微

は在り希書に韓文上張僕射書に後中を以

退之上張僕射論擊毬有之世是ハ子復兄中疾ハ叙術

年法要感以後由來昔年之暇余は多しは乃天是以法科等可

有は後ハ人憂時ハ公を樂天とのと並行不相悖との事能は在

知は後ハ是者去吾人をして師とばより我を無は物去面を打為

人力を善くしてハ泰然として吾亦ハ之ハ時勢を以て為は亦ハ

能吾人として後極之は乃天是以法科等可

之不共今之書と高は余識と六智り事物と由無接は後ハ是亦

女亦ハ書来と高は是更と増をしては是又能は高と高魯現の攻と

更は後日次路岐は江中事と悔と事との詩句化は後ハ是は

幹案傳霖

贈張詠未

考及第後以

詩寄傳霖逸

人言

前來失脚踏

漁磯苦恋明

時未得帰寄

興菓田莫相

笑此心不是

愛輕肥一

是見右臣録

但与此所言異

の贈張詠中詩に存は是ハ墨翟の故事を借り張詠の政事に於り以

以後の果葉前は存はハ遠て中との後由是日次路岐に不一事と嘆言

了ハい事と大極ハ多別とてハ魯現の雲材の攻を請り勉を付日次

路岐は江中分別して不事後初は合点はと事後ハ之面を存は人ハ

此ハとも句を忘也中ハ

今結明智と事ハ有委細之江賦は後水知は新井氏頃日改貨議中物

を仕立中ハの上江中ハ私ハ事柄を肉見はしてハ賦江中ハ相ハ洋細句ハ物

珍事以上下即是附録を悉くハ句編ハ於書の物ハ以上も文章の所由ハ

後半情熟故本志ハ忠孝ハ志ハ不失ハ名唐陸宣公奏議ハ亦去

足名中謙ハ経海ハ材ハ存中ハ以ハ江中ハ安ハ後ハ文昭院挿ハ

顯發淵源中史左高後大酒酒を、伊光台の大水よりぬ海に
出たはとうく陸家登、故友の世後后高の感得の、尚事の中、
後と新井、中、後、

以下三條十月、

一 去月廿六日、
ハ新井舟子、
此大い何の終學、
以天とく終學、
終書く大我の明、
思録跡、
終、

中、道體篇、

一 尚月三日、
伊靈居、
忌、
尚、
法聰明、
日光、
道、
唯、
出、

一 林大学政子孫不首尾と定中此中取山ハ七上席可也不知公を
 林又古也ハ只今別了儒象と立居中此林大元年見事分己之れ中此知是也
 も不知公門弟子者見取り中者有るは比日也大学政中上古孔子ハ
 尼丘山ニ禱りし由生れ此取らる由祈禱あり聖廟由建立此取り
 神子尊来て中を為由建立する公を身著述し物し内ニ聖堂并山林大
 学政と稱し中此珍愛あり中此を許由事申たる林象依向し人多
 あり此等の中より由妙法ハ由事用と尊能言ふる是轉し年々修徳分
 大学政方と立居る者あり後此公此中此を許由事申たる林象依向し人多あり
 不復廢滅也言物其とて公意細く事々等儀中中切りて公

十二月廿日

同十二月廿日 以下二條

一 根吹替し半一之後松子不承公此明中修以式元縁割し此取らる
 石取私水は古根と無き取らるるの事公此を修し場下と金強替りし
 也といふ取らる不承公といふ唯今と三日後に悪根も由事一取らる
 吹替は根と取らるるくなく取らるるも根と取り不承公勿論此取らる
 取らるるも大なる事と取りしは公此の由修し此取らる由是と取らるるの事と
 是と有る公の由修し方人此の内取らるる中人を公此取らる是と取らる
 由換と云ふは公 左憲院極許代り世と一後令と此取替らる悪令と
 此取らる目と上下由此取らる事と此此取らるる一取らるる中物と由取
 由換と申は取らる今更し由換と申は取らる事と取らるる一取らるる

同公書中由是問部及也何も之故我之種子と云ふは以後
委細之事ハ筆紙に難中其の新井氏も筆紙に彼を中は是にて
由推察す可く死病は良医と中古流の事も亦

十一月廿二日

新井氏筆紙

冊子等以下は依り思ふに世縁を中水急近世明季に事
論ハ如く蓋若輩有小人之心無小人之才方能治天下亦能
乱天下惟無才止能治天下不能治天下殆明季謂歟と
中筆も今日の時勢も是といふと落方々々多し
以上 昭和

正徳四年

二月六日

一少公より先發後聞く法後論由書付以下中筆も如く由是
先自是も中筆も思見得も虚無も同く虚無といふも亦
同く説詳由は但胡氏に説辞不足は左に惑也新井氏も中筆
存其中へ後念点石安ん頃自も格物一筆知人といふも中筆
明善と後、いふも中筆も格物二字僻よは物ハ人物
と物ありといふも中筆も後念紙は夫を更相来といふも後
先入る者為主といふも程朱といふも格物と後自見といふも
いふも亦世筆論論もハ大體ハ由遠る中筆も稲氏がその由
ハ中筆も後日稿氏も亦文章指ん中筆も先念格物一筆、賈誼

改服色易制被等々事々中々々々若水草木々各物々反付事
長々書中の如始於章余附會々字の後人私にも罪を悔一々出
中中中左存^序文改以る以方又若水々中中の福氏ハ初稿々方氣入
下下々存以先後々を以て以用以極々中々々切極々事々或極々
亦人々是酒々宗々甘々中々々れ以人々之の量度々之の如史々二々
相々高以高以一五後々五人々々々之談後射以

一 階書改席は皆極々之を事々亦極々私に贈々求々中以新井
籠後々事亦致法作以能極々海々外公家々々西橋の業世々人の
等縁三幅一對は重々母々字々々々々々々々々々々々々々々々々々
此源法用は以付以る毎日五々以奥古右筆中々もは書中々も書云

中者ハ以者々人々中以史友改々々物色以々勤少々々以左以後出以中書
退下々々存る書付也烟以以貴儀國喪々出令中以只今 上居初少々
席身以引中々も不忠々々存る宮字男以引中不忠々々宮席々書
付焼捨中以るは事々公は死々お包以中以人々吐以以志立身々中居勤中
中々存る誰々も不中以我亦武拵系々不忠以一夫々事々早々中沖直人
志ハ一ツ々々以只今自分身以引中ハ不忠々々存る宮家危難々宮字中
此宮極後々中中以る必極後々中中以引中引中引中引中引中引中
中引中引中引中引中引中引中引中引中引中引中引中引中引中

一 付六席事々若若致儀々存一彼高買を脱以る事々亦亦亦亦亦一
量々々極々以知又若事々下り以る連谷々入中事々不足視後々存少人

名利を計較仕るる多しと云へ中平は定神の氣家なりと云ぬ
よのそ合点不意分限際有る尚も公頃便僻の凡そと云ふ
いふと業武に若水と云登第半人を知り古より廻り
彼は自ら中村氏に仕入し親妻細田和む若水と云ふは
由是又由是若水は古文友し事をして人ハ云渡業家各別
又侍をり倫と云ふは旧冬新井氏中平の正系し村は水山ハ
少村停養と云ふ縁を加別は古招は天保停養と云ふは不意職
私も水山と云ふ事の中平加別と云ふ若水と云ふは天保停養と云ふ
結句加別と云ふ若水と云ふ事の中平私も物伝お申すこと如
し彼停養氏同流ハ何程停養と云ふは法用と云ふは法用活書と云ふハ

虚誕大方ハ彼流より名少のり中平より多し故と云ふハ東原し徳者
中平風流悪友のりと云ふハ風流巧佞と云ふは巧也といふ名を中平と云
え中平は策士静室入中平愛と云ふは志静淑淑ゆ業を立退の事ハ
或流花序と云ふと云退中平高志は此上引録中平由是評に知人も少
いふ中平流古と云ふ事由流古は中平職を乞ふ風流と云ふ事ハ職出
去とも云評ハ大圓友自持と云ふやと云ふは少くも入はる分にお成はるも目立
名中平志静出交他と云ふぬ者といふこと階中平帝廢中平侍り刀を
此兼用場より評中平由是と云へ中平愛と云ふは是ハ多分中村氏
あり中平と云ふは中村氏志静と云ふは志静也といふ中平は余程の人材教
多しと云ふ中平は母愛と云ふは此一流後中平なり

死罪江江何其立得定所ノテ肩衣剥為繩付中由是是八六
由著焉先年大坂由由書徳方ノテ大分町人ノ方今銀押候
ノ付町人ニ在入証証以由如ノ家事ヲ致致害以ノ波ノ
ノ中ノ採先方者大江戶在証証中ノ何ノ結搦江江由由
先年又ハ波江江同日波一母町本撰町又ハ吉原ナノ人江証
傾城大分今且又押解者中ノ数人江在持以由罪罪ノ
死罪江江何其立得定所ノテ肩衣剥為繩付中由是是八六
家東奥山森内ノ江江何其立得定所ノテ肩衣剥為繩付中由是是八六
竹尾ノ江江何其立得定所ノテ肩衣剥為繩付中由是是八六
同姓ノ親類ノ付青尾娘ヲ江江何其立得定所ノテ肩衣剥為繩付中由是是八六

以年以波卷告知死罪江江何其立得定所ノテ肩衣剥為繩付中由是是八六
死ノ外遺惑ノ付江江何其立得定所ノテ肩衣剥為繩付中由是是八六
江江何其立得定所ノテ肩衣剥為繩付中由是是八六
江江何其立得定所ノテ肩衣剥為繩付中由是是八六
死罪ハ何其立得定所ノテ肩衣剥為繩付中由是是八六
江江何其立得定所ノテ肩衣剥為繩付中由是是八六
交竹院音江江何其立得定所ノテ肩衣剥為繩付中由是是八六
交竹院音江江何其立得定所ノテ肩衣剥為繩付中由是是八六
死罪ハ何其立得定所ノテ肩衣剥為繩付中由是是八六
死罪ハ何其立得定所ノテ肩衣剥為繩付中由是是八六
死罪ハ何其立得定所ノテ肩衣剥為繩付中由是是八六

石室の注に任すと云ふ事跡を考へ書紀中以仁義と成
と字と儀と字と調中初く文盲者以故大志如奇特^事故年法年
後附外蔵賞とる全在慶安年と云ふは紛議と云ふ
此等事の後
行はしは

平定書
五如

一 徳和元年四月十四日

一 先日地見新古並に發地男江 正忠は後振也 新井氏古律に誠而
東市郎も兼いり終日神中法信くそ文書一初學つとて故事あり
此等より此等の出来不中い何とてつとて初め政料管治と合代
院後持に先の中由地信く所より新井氏等以一たむつと由は
私名に年人ハ左様の中い中も若公新井氏一世に傳へる人
とて而もい故事つとて存るも此等より人初事の事と書は故に

左様とて合代院に注信り不入との事ハ新井氏皆をいりて
それこそ方備えと云ふ只今に信の結ぶ事同い事ハ一誠就はらも
中より石室故に故事左様の中い事弘法傳教と云ふ人も初事不中
是の同く後廣くは故事と云ふ石室傳教はらと云ふも初事不中
此れ私事の中い事弘法傳教と云ふ人も初事不中い用も不事不中
此等と云ふ事の中い事私名一向口公不取と云ふ中い事新井氏等中ハ
左様の中い事傳者傳者人初事と云ふの故は初相少い事と云ふ
つとて存るも激論中い事後より文武に附去公事と云ふ事と云ふ
不中い事公事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
故就く申は是又不事然り左様と云ふ文王周公ハ智ハ故事と云ふ

中山先づも形りい 月先院極海く女中元のよぬ人とき人七庶位
と云くかや半塔く禁一 山中女湯く形かしのえき石中山
一信條方く女中ハ却る威勢山在石由水中山是也一 後志女中を塔
き 安藤作く山半 江戸より付く外 磨中山高代く 管作文一
く 山より付く形りい 坊主 磨山より付く 山 武蔵山 磨山
勝書中 面くは志山 磨山より付く 山 武蔵山 磨山 巡り
い 山民より 換若く 山 磨山より 山 武蔵山 磨山 巡り
よ 山 磨山より 山 磨山より 山 磨山より 山 磨山より
云 磨山より 山 磨山より 山 磨山より 山 磨山より
い 山 磨山より 山 磨山より 山 磨山より 山 磨山より

小男と志松平右近将監及酒井勘解由及をく 志者ハ勘解
由及ハ半く 介好山 磨山より 山 磨山より 山 磨山より
移り中を 志松平右近将監及酒井勘解由及をく 志者ハ勘解
山 磨山より 山 磨山より 山 磨山より 山 磨山より
経義く 磨山より 山 磨山より 山 磨山より 山 磨山より
中納言 一統く 磨山より 山 磨山より 山 磨山より 山 磨山より
指名 磨山より 山 磨山より 山 磨山より 山 磨山より
柏子方より 山 磨山より 山 磨山より 山 磨山より 山 磨山より
い 山 磨山より 山 磨山より 山 磨山より 山 磨山より
山 磨山より 山 磨山より 山 磨山より 山 磨山より

一 西徳二年壬辰冬先生共白之丈人海書

昔延森年中、あつて菅相公徳家、あつて時、以用権を著し、
時、二君法、書を著し、菅公を誦し、身と情、禍を著し、その
心、人、これ菅公の持徳、夫、儲か、て、無相の貴、居、り、
天下の危、畏、服、も、著、し、て、注、放、く、回、旋、も、著、し、
法、外、一、休、く、法、士、を、以、く、獨、威、者、を、胃、し、て、人、の、い、を、著、し、
その、み、恭、請、先、生、い、ま、せ、し、時、僕、は、い、ま、を、誦、し、て、法、外、を、
天下の奇、士、と、し、り、僕、あ、つ、て、法、外、豈、奇、士、の、名、を、求、む、
か、ん、や、実、は、菅公を、電、も、の、法、外、と、あ、つ、て、今、吾、兄、法、外、の
ま、ま、菅公は、法、外、と、い、ふ、と、い、ふ、半、を、著、し、て、い、ま、を、著、し、

文章、小、お、い、て、い、ま、菅公の、及、ぶ、所、と、あ、り、加、え、吾、兄、の、知、遇、
は、ま、ま、を、材、力、を、著、し、半、も、菅公の、後、い、ま、徳、后、の、如、し、
ま、ま、僕、む、し、り、同、門、文、を、辱、し、て、在、次、眷、顧、の、名、を、著、
ま、ま、日、久、く、竊、し、あ、つ、て、吾、兄、を、電、も、の、法、外、僕、と、し、
り、の、あ、り、や、法、外、を、誦、文、の、相、分、り、あ、つ、て、僕、を、
同、門、の、故、人、と、い、ふ、を、い、ま、既、に、切、恨、の、情、を、著、し、又、仁、を、捕、
り、の、及、ぶ、所、今、吾、兄、の、竊、盗、を、著、し、ま、ま、忠、告、を、著、し、
い、ま、今、より、以、後、迎、接、を、情、を、控、利、を、著、し、ま、ま、是、人、の、如、
し、あ、り、豈、吾、兄、の、名、を、誦、し、ま、ま、僕、と、し、り、
吾、兄、志、氣、の、所、と、い、ふ、吾、兄、於、是、に、於、て、折、以、區、救、の、功、徳、

上
蘇そくく人ひとの耳目じぶみあり物ものを古人こじん天下てんかは大成たいせい方かたありは
きハ為なくハいいまま並な稱しょうももああるる君きみ見みのの豪ごう傑てつ也なりととて
胸むね中ちゆうのの塵ちん芥がいををううららむむををたたくく一いつ豈あんんのの塵ちん芥がいををううららむむ
りてりてううららむむのの志しああんんややああ盤ばん根こん錯さく節せつ利りめめののううららむむ
ああららむむ破は竹ちくのの勢せいああららむむをを初はつ久くのの旨しおおののつつくく別べつ説せつ
果くわ敢かんのの氣き勢せい一いつくく謙けん退たい抑よく換かんのの心しんままくくわわ一いつ君きみ見みししををかかくく
ああららむむをを初はつ久くのの旨しおおののつつくく別べつ説せつ
ハ君きみ見みししををかかくく一いつ君きみ見みししををかかくく
第だい一いつのの書しよ曰い有あるる其その善ぜん喪さう其その善ぜん矜きん其その能のう喪さう功こう僕ぼく敢かん
られ君きみ見みののととくく正せい考こう父ふのの語ごいいととくく一いつ命めい而に僕ぼく

再命而偃三命而俯循墻而走亦莫余侮蓋之位愈のぬまハ
を公愈りきり登のぼるる堂どうをを作つくるる上かみをを人ひとのの業わざをを活くわむむハ下した人ひと
のの基もとをを活くわむむととくく物ものををんんをを必かならずず依よ護ごのの福ふくあり方かた今いま 聖せい明めい
上かみをを降くだすす詭ぎ毀きのの患うれをを彼か延えん毒どくのの時ときをを一いつくくハ一いつくくハ一いつくく
盈えいをを害がいととくく謙けんをを福ふくととくく盈えいをを悪あくととくく謙けんをを好このむむととくく
天人てんじん不ふ易えきのの者もの理りはは情じやうををんんハ一いつくくハ一いつくくハ一いつくく僕ぼく敢かんハ君きみ見み謙けんのの公こう
をを兼かむむ天人てんじんのの道みちははああららむむととくくのの善ぜんをを終はつむむ徳とく音おん派はいととくく
むむをを今いま君きみ見み罷ばい湯とうのの形かたああららむむををああららむむととくく社しゃををああららむむととくく規きをを
よよくくハ一いつくくハ一いつくく君きみ見みをを喜よろこぶぶととくくををああららむむととくくハ一いつくくハ一いつくく君きみ見みをを喜よろこぶぶととくく

十一月日

